

# URAWA REDS MEMBER 2024

## 浦和レッズ 2024シーズン プレーヤーズ名鑑



**1** 西川 周作 **GK**

①37 ②1986/6/18 ③183/81 ④大分

今年で38歳を迎えながら、いまだ成長途にある不動の守護神。昨シーズンは7年ぶりのJ1ベストイレブンを受賞した。2022シーズンから就任したジョアンミットGKコーチ、浦和GKチームとともに自己改革に取り組み、より万能のGKに進化。得意なロングキックは言うに及ばず、ハイボール対応も他の追随を許さない。



**2** 酒井 宏樹 **DF**

①33 ②1990/4/12 ③185/78 ④長野

浦和レッズのキャプテンであり、Jリーグを代表するサイドバック。怪我に悩まされるシーズンが続いていたが、昨年11月に手術に踏み切ったことでリフレッシュ。驚異的な回復で回復を遂げ、12月のFIFAクラブワールドカップにも出場した。圧倒的なパワーと推進力を誇り、何よりメンタルの強さはまさに「世界の酒井」と呼ぶに相応しい。



**3** 伊藤 敦樹 **MF**

①25 ②1998/8/11 ③185/78 ④埼玉

プロ3年目の昨季は日本代表にも選出され、いよいよ浦和レッズの顔と言え存在に欠かせない浦和レッズ育成出身選手。ピッチを縦横無尽に駆け回り、守攻にパワーを発揮できる希少な大型ボランチで、新監督・新システムで迎える今季も重要な役割を担う。ピッチ中央やや右寄りから抜け出しでのアシスト&ゴール直前に期待がかかる。



**4** 石原 広教 **DF**

①24 ②1999/2/26 ③169/65 ④神奈川

右サイドを主戦場としつつ、左右両サイドでプレー可能な新加入のサイドバック。アカデミー時代から長年過ごした湘南ベルマーレを飛び出し、今季は浦和レッズで浦井とのポジション争いに挑む。2バックでプレーするイメージが強いが「上に行くには4バックもできないといけない。むしろサイドバックがやりやすかった」と適応にも不安はない。



**5** マリウス ホイブラーテン **DF**

①29 ②1995/1/23 ③184/77 ④ノルウェー

加入1年目の昨季はキャンプが終わってからの合流となったが、その能力がすぐにリーグワークに定着した。広範囲をカバーできるスピードと冷静な判断力で、相シヨルツとともに鉄壁の守備ラインを形成。そろってJ1ベストイレブンに選出された。パワーと空中戦の強さはシヨルツをも上回り、左足のロングフィードも魅力だ。



**6** 岩尾 憲 **MF**

①35 ②1988/4/18 ③175/65 ④群馬

昨季は公式戦53試合に出場というハードワークをこなし、すっかり浦和の中心選手になった大ベテランの司令塔。浦和レッズ加入3年目となる今季は同ポジションに新監督の教え子が入ったことで意識せず、自分ができていることに焦点をあてる」と泰然自若。持ち前の解像力で監督の要求に応えている。



**7** 安部 裕葵 **FW**

①25 ②1999/1/28 ③171/65 ④東京

昨季は4年ぶりの国内復帰を果たして浦和レッズに加入したが、怪我による長いブランクもあってなかなかコンディションが上がらず、出場機会がなかった。しかし、昨季終盤から徐々に調子を取り戻しており、今季は復活の予感。チーム内でも屈指のテクニクを誇り、特にキレのあるドリブルは必見。サイドでも中央でもプレー可能だ。



**8** 小泉 佳穂 **MF**

①27 ②1996/10/5 ③172/63 ④東京

加入3年目の昨季は負傷もあって一時フェードアウトするも、シーズン後半に復活。サイドで起用され、巧みな誘導と献身性で守備を支えた。今季の【4-3-3】システムにおけるインサイドハーフは過去に本人が語っていた逸話もあり、一層の存在感が期待される。組み立てを助ける顔出しと味方をフリーにするパスに注目。



**9** ブライアン リンセン **FW**

①33 ②1990/10/8 ③170/64 ④オランダ

加入3シーズン目を迎えるストライカー。「(オランダ時代に所属した)フェイエノールトに似ている」と新スタールを歓迎しており、ゴールラッシュに期待がかかる。加入直後の21年7月に負傷したこともあり、なかなか力を発揮できていないものの、昨季終盤は鬼気迫るパフォーマンスを発揮。今季は持ち味の高い決定力を見せてくれそうだ。



**10** 中島 翔哉 **MF**

①29 ②1994/8/23 ③164/64 ④東京

夏の補強の目玉として昨季途中に加入。6年ぶりのJリーグ復帰となったが、負傷もありリーグ戦先発は1試合に留まった。しかし、最終節の札幌戦で得点を挙げたように昨季終盤はパフォーマンスが向上。FIFAクラブワールドカップでもチャンスを出した。独特の柔らかなボールタッチは必見。



**11** サミュエル グスタフソン **MF**

①29 ②1995/1/11 ③187/79 ④スウェーデン

マティアス新監督とともにやってきた現役スウェーデン代表。中盤の底、アンカーポジションを本職とするMFで、技術と状況判断に優れる。前所属の経験から監督の戦術も熟知しており、チームの頭脳を司ることが期待される。後方でゲームメイクにとどまらず、ゴール前に進出してフィニッシュにも鋭い攻撃的なスタイルが持ち味。



**12** チアゴ サンタナ **FW**

①31 ②1993/2/4 ③184/80 ④ブラジル

2022年のJ1得点王が浦和レッズに加入。高々得点力だけでなく、ここ数年の浦和に不足していた制空力ももたらしてくれるストライカーだ。利き足は左だが、右足でも強烈なシュートを放つ。左右両足に頭、近距離に遠距離と、どこからでもゴールを狙うことが可能で、アシスト能力も高い万能型だ。



**13** 渡邊 凌磨 **MF**

①27 ②1996/10/2 ③176/72 ④埼玉

プロ入り後も「浦和レッズ愛」を包み隠さず表現していた男が、怪我に悩まされ、浦和に復帰した。浦和、吉田とは前所属の高校以来の再会となる。サイドの攻撃的な選手だが、両サイドに加えて中央、果てはサイドバックにも対応可能。インテリジェンスに優れ、どのポジションでも出場しても気の利いたプレーでチームを助けてくれる存在だ。



**14** 関根 貴大 **MF**

①28 ②1995/4/19 ③167/61 ④埼玉

かつての「ドリブラー」から脱却して、あらゆる局面で強度を発揮できるプレーヤーへと成熟した。海外で過ごしたシーズンを挟んで、今季は浦和レッズ10年目を迎える。クラブが変革を続ける中、魂を継承する貴重な生え抜き選手だ。複数のポジションでプレーでき、どんな状況にも対応する準備ができている。



**16** 牲川 歩見 **GK**

①29 ②1994/5/12 ③195/90 ④静岡

浦和レッズ2年目の昨季は、期待の公式戦スタメン出場を果たして実力を見せた。加入当初は頼りなまもあつたが、GKチームでトレーニングに励み大躍進を遂げた。体格もふた回り大きくなり、出場した試合では進化を続ける守護神・西川と遜色のないプレーを披露するなど、食いつく成長スピードを見ている。



**17** オラ ソルバック **MF**

①25 ②1998/9/7 ③189/82 ④ノルウェー

ノルウェーからやってきた、ゴールもアシストもいける規格外のウィング。左右両サイドでプレー可能だが、「左足とより右足で、右足はダイナミック」とスタイルが少し変わってくるらしい。189cmの長身ながら抜群のスピードを誇り、その速さ長い手足を生かしたドリブルはちょっとやそつではめられない。



**18** 高橋 利樹 **FW**

①26 ②1998/1/20 ③182/76 ④埼玉

加入2年目を迎えるストライカーで、再びリーグを奪取に挑む。昨季は浦和デビュー戦で早々に負傷交代してしまう不運に見舞われるも、シーズン終盤に再び出場。J1初ゴールも挙げてみせた。クロスやスルーパスに合わせてゴール前に飛び込み、優れた「当て脚」を発揮してワンタッチで混戦も流し込むパターンを得意とする。



**20** 佐藤 瑠大 **DF**

①25 ②1998/9/10 ③183/77 ④福島

空中戦と対人守備に優れる、新加入のセンターバック。リ攻撃が好きなので」と語るように縦パスなどビルドアップも得意としており、セットプレーの得点源としても期待できる。「必ずスタメンを獲りたいが、そう簡単にはいかないで焦りすぎないことが大事」と自分を客観視するクレーバーさも持ち合わせている。



**21** 大久保 智明 **MF**

①25 ②1998/7/23 ③170/62 ④東京

昨季はJ1リーグ30試合に出場。献身性に守備をこなし、得意なドリブルでチームを助けた。低い位置からでもボールを運びチームを押し上げてくれる貴重な存在で、仕掛けるドリブルも兼ね。あつは本人も課題とするフィニッシュ局面が向上すれば、日本代表も見えてくる。



**23** 井上 黎生人 **DF**

①26 ②1997/3/9 ③180/77 ④島根

フィジカルも技術も申し分ない新加入のセンターバックは、吉野人のキャリアの持ち主。J3で6シーズン、J2で1シーズンを過ごしたのちにJ1スタメンアップを果たし、今季は浦和レッズにたどり着いた。シヨルツとマウスの壁は高いが「そこを越えるために来た」と貪欲な姿勢を崩さず、バックアップで終わるつもりはない。

# URAWA REDS MEMBER 2024

## 浦和レッズ 2024シーズン プレーヤーズ名鑑



NEW

24 松尾 佑介 MF

①26 ②1997/7/23 ③170/65 ④埼玉

2シーズンぶりに浦和レッズに帰還したアタッカー。22シーズンは本職のサイドハーフだけでなく、センターフォワードでも能力を発揮して公式戦2桁ゴールを記録。「3トップのウイングでプレーするのははじめて」と本人は語るも、そのスピードと突破力はうってつけ。得点力アップの起爆剤として期待がかかる育成出身選手。



25 安居 海渡 MF

①24 ②2000/2/9 ③174/69 ④埼玉

攻守万能タイプで、テクニカルなプレーだけでなく体を張ることも得意とするボランチ。プロ2年目の昨季は、本職ではないトップ下で奮闘し、主力と言っていた活躍を見た。今季は大学時代に慣れ親しんだアタッカーポジションだけでなく、一列前のインサイドハーフにもトライしており、中盤センターの全ポジションに対応可能だ。



27 エカニット パンパ MF

①24 ②1999/10/21 ③168/68 ④タイ

昨季途中に加入した、タイ代表の俊英。今季は期限付き移籍期間を延長して、再び浦和レッズのユニフォームを身にまとう。機動力と技術を併せ持ち、ドリブルでボールを運んで密集でのターンやスルーパス、シュートも得意。2年目の今季は一層の飛躍が期待される。



28 アレクサンダー ショルツ DF

①31 ②1992/10/24 ③189/84 ④デンマーク

浦和レッズの歴史はあるか、「リーグ歴代でも屈指の傑出度と実力を誇る外国籍センターバック。ユニフォームを身にまとう。機動力と技術を併せ持ち、ドリブルでボールを運んで密集でのターンやスルーパス、シュートも得意。2年目の今季は一層の飛躍が期待される。



29 堀内 陽太 MF

①19 ②2004/7/8 ③171/66 ④埼玉

ファイタータイプながら攻撃参加にも鋭さを見せるボランチ。プロ1年目の昨季はわずかな出場機会に終わったが、池田伸康コーチとの個人練習などで着実にレベルアップ。「(浦和の)レベルの高さは外から見て想像してはいたとおりだったけど、まったく手の届かない位置ではない」と分析し、虎視眈々と出場機会を狙う。



30 興梠 慎三 FW

①37 ②1986/7/31 ③175/72 ④宮崎

浦和レッズに復帰した昨季は「いいパフォーマンスができるのは今年までかな」と思い、強い決意で臨んだ中で、限られた出場時間の中リーグ戦4ゴールをマーク、特にAFCチャンピオンズリーグ2022決勝ではホーム・アウェイともゴールに絡む大きな仕事をした。国内屈指のストライカーであり浦和のエースは、唯一果たしていない目標、リーグ優勝に再び挑む。



31 吉田 舜 GK

①27 ②1996/11/28 ③185/83 ④埼玉

浦和レッズGKチームの中では最も新参だが、驚異的な成長を遂げている。昨季は3番手ながら、もともと数かった反射に安定感が加わった今季は「桂川選手だけでなく、西川選手も超えるつもり」と虎視眈々。ビルドアップ能力はチーム内でも抜けており、プレッシャーを受けても動じない技術と度胸を合わせ持つ。



NEW

35 宇賀神 友弥 MF

①35 ②1988/3/23 ③172/71 ④埼玉

一度はチームを去ったレジェンドが、「まさかこういう形で帰ってくる」と本人も驚きの復帰。3シーズンぶりのJ1、そして浦和レッズでのプレーとなるが、「引退しに来たわけではない」と語ったとおり技術や戦術眼は健在。同ポジションのライバルにも積極的にアドバイスを送るなど、ピッチ内にとどまらないチーム貢献も期待できる。



NEW

38 前田 直輝 FW

①29 ②1994/11/17 ③177/72 ④埼玉

右サイドを主戦場とし海外でもプレー経験のあるドリブラーだが、実は浦和出身浦和育ち。小学生時代から東京ヴェルディの育成組織に所属するも「中学のマラソン大会は埼玉スタジアムで走り、成人式はさいたまスーパーアリーナだった」という。1対1の仕掛けが最大の魅力だが、味方を生かすコンビネーションにも優れる。



NEW

39 早川 隼平 MF

①18 ②2005/12/5 ③163/65 ④埼玉

高校1年生時から2種登録され、昨季のルヴァンカップではほとんどすべての試合に出場してニューヒーロー賞も受賞。すでに浦和レッズサポーターには大きなインパクトを与えている。高い技術と物怖じしないメンタルを武器に、攻撃的ポジションなら左右中央どこでもプレーできる。



NEW

47 武田 英寿 MF

①22 ②2001/9/15 ③178/68 ④宮城

2年半の武者修行を経て、「自分でも、このタイミングで戻ると思っていた」ところにクラブから帰還オファー。期待のレフティが、満を持して再び赤いユニフォームに袖を通すことになった。得意ポジションの右インサイドハーフは激戦区だが、正確な左足を武器にチャンス伺う。セットプレーのキックは特に注目すべし。



66 大畑 歩夢 DF

①22 ②2001/4/27 ③168/65 ④福岡

技術と推進力に秀でた左サイドバック。加入2年目の昨シーズンはリーグ戦先発出場は4試合にとどまったが、今季は同ポジションのライバル2人が海外へと旅立ち、かかる期待も大きい。パリ5輪世代として、U-23日本代表でサバイバルするためにも結果を残したいシーズンになる。

①年齢 (2024年2月23日時点) ②生年月日 ③身長/体重 ④出身地 NEW 新加入



# URAWA REDS